

自民クラブ

一般廃棄物処分場について

問 (仮称)東部一般廃棄物最終処分場の工事を計上しているが、これからのスケジュール・施設の概要・使用期間を問う。
また、長期使用するための対策及び供用開始後の汚水汚泥については、どう処理するのか。

答 これからの建設スケジュールは、入札・契約を経て、10月頃から工事に着手し、平成21年8月頃の完成を見込んでいます。今年度においては、県道改良工事・埋設地の掘削・床掘・調整池の建設などを予定している。

施設の概要は、敷地面積が約2万3千400平方メートル、埋立形式はクローズド型(被覆型)の処分場であり、埋立容量は約5万8千立方メートル、貯留構造物はコンク



リートピット方式。使用期間は15年で、分別リサイクルの徹底により、できる限り減容化を図り、可能な限り長期間使用することを考えている。

供用開始後の汚水等については、水処理施設で完全処理し、外部へは放出せず場内の散水用として循環利用することで、周辺環境に悪影響を与えないようにすることとしている。

無党派

子どもの安全を守る
青色防犯パトロールについて

問 地域ぐるみで子どもの安全を守る防犯活動として、新たに取り組む青色防犯パトロール事業について、その目的や内容、事業の継続発展への考えを問う。

答 この事業は、市民の皆さんに安心感を与え、防犯意識の高揚と犯罪抑止効果を高め、安全・安心なまちづくりを目的として、防犯活動を実施する車両に青色回転灯とパトロール表示ステッカーを装着し、より安全で広範囲な防犯活動を行うものである。今回は64台の車に配備を予定しているが、次年度以降、青色防犯パトロール車両100台を目標に普及していきたい。

また、現在、市が委嘱しているセーフティパトロール隊は、毎週1回、主に徒歩による巡視活動を行っているが、この事業により、

これまでの活動に加えて車両による広範囲なパトロール活動を行う予定である。さらに、本庁と各総合支所の市公用車計5台で、職員により週1回以上、主に児童生徒の登下校時間等に巡視活動を行うこととしている。

市内においては、教育委員会や防犯協会・自主防犯団体などで、地域と一体となったさまざまな防犯活動がなされているが、今回の青色防犯パトロールの実施により、犯罪抑止効果がいつそう高められ、さらに安全・安心なまちづくりを推進したいと考えている。

無党派

どう推進する？
AED(※注)の設置と講習会

問 AED設置事業について、学校・施設・職員・企業・団体・民間等を対象とする講習会の推進と、AEDを設置する救急ステーション体制への取り組みを問う。

答 当市では、平成17年度から平成19年度5月末までに計125回・約2千人がAEDを含めた救命講習を受講している。また、今回AED設置予定の50施設の教職員・市職員等約240名に対する8回の講習会を計画している。今後毎月第3日曜日の応急手当の日などに年間を通して開催し、普及啓発を積極的に推進したい。
平成16年7月からは一般市民も

AED使用が可能となったため、公共施設への設置を進めている。大型店舗・ホテル等不特定多数の人が利用する民間施設に対しても、救命講習や救急訓練などの機会を捕らえて普及啓発に努めている。今後も救命事例による紹介や実技指導を通じた有効性の説明に努め、民間事業所の理解と協力を得ながら、AEDの民間施設への普及拡大に取り組んでいきたい。



※注 AED(自動体外式除細動器)は心臓の心室細動の際に電気ショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療器具。

日本共産党西条市議団

西条産業情報支援センターの経営状況は？

問 株式会社西条産業情報支援センターの経営状況について、①事業の概況が住民の福祉向上につながる形で結びついて

るのか②市長が代表取締役・副市長が取締役に就任している運営手法について③昨年の委託管理費の約8倍近い指定管理委託料について④中小機構の高度化支援事業費の収入を見込んでいたが、予算が昨年より大幅に増額となっていることについて、それぞれ考え方を問う。

答

株式会社西条産業情報支援センターは、①西条市の産業政策の実行機関という理念のもと、利益を追求するのではなく、公共性・公益性を重視した組織である。従来型の企業誘致が今日では難しいため、企業集積を活かした内発型の産業育成・振興を図っていく方向を打ち出したものであり、その拠点施設としてじゅうぶん機能を果たしている。

②市長が自ら社長として組織経営や対外的な折衝をしていることがこの組織の強みであり、それによって大きな成果を上げていると認識している。

③指定管理者制の導入により、従来市が直営で負担していた管理の諸経費を指定管理委託料として支払う形をとるための増額である。

④競争意識の中での中小機構からの資金獲得について、産業情報支援センターはここに本来の強みがあるのであり、資金の受け皿として、また受け皿企業の育成においてもじゅうぶんな評価をいただいております。今回1億円を超える大きな資金獲得に至ったものである。